
[成果情報名] UAEへ茶の輸出を可能とする病虫害防除体系

[要約] 構築した病虫害防除体系を用いると、一番茶、二番茶および秋冬番茶において、散布した農薬はUAEの残留農薬基準値（MRL）以下であり、収量への影響がみられない範囲に病虫害の発生を抑えることが出来る。

[キーワード] 輸出防除体系、UAE、一番茶、二番茶、秋冬番茶

[担当部署] 八女分場；茶・中山間地作物チーム

[連絡先] 0943-42-0292

[対象項目] 茶

[専門項目] 病虫害

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

日本食ブームの影響や健康志向の高まりにより、今後は中東諸国への輸出増加が見込まれる（JETRO 2021）。中東諸国の中でもアラブ首長国連邦（以下、UAE）は、所得が高く、他国の文化に寛容であるため、新たな八女茶の輸出先国になると考えられる。しかし、UAEでは日本と異なる残留農薬基準値（以下、MRL）が設定されているため、それに対応可能な防除体系を構築する必要がある。そこで、UAEへ茶の輸出を可能とする病虫害防除体系を構築する。

[成果の内容・特徴]

1. UAEへ茶の輸出を可能とする病虫害防除体系を構築した（表1）。
2. 一番茶、二番茶および秋冬番茶の残留農薬分析値は、UAEのMRL以下であった（表1、一部データ略）。
3. 構築した防除体系を用いると、年間を通して、収量への影響が見られない範囲に病虫害の発生を抑えることができる。（図1、一部データ略）

[成果の活用面・留意点]

1. ガンバ水和剤（令和8年2月販売終了予定）は、ハチハチフロアブルに代替可能である。
2. MRLは更新されるため、適宜確認を行い対応する必要がある。
3. 輸向け栽培では、近接園地からの農薬飛散や製茶段階での茶葉の混入を防止する必要がある。このため、輸出用園地は周囲からの農薬飛散の対策を講じた圃場を選び、栽培管理や加工には専用の機械や工場を使用することが望ましい。

[具体的データ]

表 1 UAE輸出向け防除体系における残留農薬分析値（令和6年）

散布時期	供試薬剤	散布日	残留農薬分析値(mg/kg)			UAE の MRL (mg/kg)
			一番茶	二番茶	秋冬番茶	
一番茶前	ブルーート MC ²⁾	2/13	— ³⁾	—	—	15
	バロックフロアブル	3/14	—	—	—	15
	ミルベノック乳剤	4/9	—	—	—	0.10
二番茶	アグリメック	6/3	—	—	—	0.05
一葉期	Z ボルドー	6/3	—	—	—	—
浅刈り後	カスミンボルドー	7/9	—	—	—	0.01
秋芽萌芽 ～一葉期	ウララ DF	8/6	—	—	—	0.10
	スピノエースフロアブル	8/6	—	—	—	0.10
	フロンサイド SC	8/6	—	—	—	0.10
秋芽 三葉期	アフーム乳剤	9/5	—	—	—	0.02
	マイトコーネフロアブル	9/5	—	—	—	0.10
	アミスター20 フロアブル	9/5	—	—	0.049	0.05
9月	ガンバ水和剤	9/26	—	—	—	0.01
上中旬	ディアナ SC	9/26	—	—	0.02	0.10

注) 1. 上記の表は、八女分場内ほ場の試験結果を示す。

2. 2年に1回の散布。

3. 「—」は検出限界未満を示す。

4. 摘採日：一番茶（4/29）、二番茶（6/24）、秋冬番茶（10/8）

5. 被覆条件：一番茶のみ、摘採1週間前から被覆（バロンスクリーンB&S）。

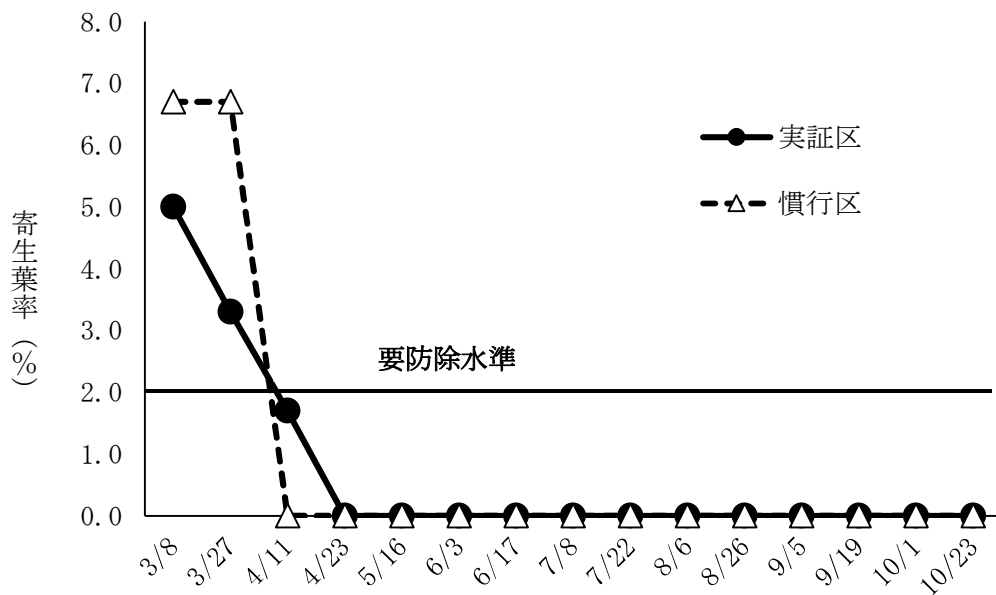


図 1 UAE輸出向け防除体系のカンザワハダニ防除効果（令和6年）

[その他]

研究課題名： UAEへの輸出に向けた茶の病虫害防除体系の構築と実証

予 算 区 分： 県特（八女茶の輸出拡大に向けた病虫害防除体系の開発）

研 究 期 間： 令和6年度（令和4～6年）

研究担当者： 末次雄哉、手柴真弓、妹川知史